



目標—指導—評価の一体化のための学習評価 中学校外国語のポイント



中学校外国語における単元の学習評価について、単元の目標及び「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成から評価までの流れを外国語の事例をもとに説明します。

I 単元の目標を作成する

単元名 読んだことについて、事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合う（第3学年 1学期）



事例1『複数単元を通した「話すこと【やり取り】」における各観点の一体的な評価』を基に説明します。
（各課の話題 1課:野菜の歴史 2課:世界遺産 3課:リサイクル）

学習指導要領「第2章外国語科の目標及び内容 第2節英語 1目標」の記載事項を確認します。

話すこと 【やり取り】	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。
	イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。
	ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。

- 各学校においては、学習指導要領の「教科の目標」及び「領域別の目標」に基づき、各学校における生徒の発達の段階と実情を踏まえ、「学年ごとの目標」を適切に定めます。
- 一つの単元で全ての領域を指導・評価するのではなく、**重点化**することも重要です。

「話すこと【やり取り】ウ」における第3学年の目標

日常的な話題や社会的な話題（野菜の歴史、世界遺産、リサイクルなど）に関して、聞いたり、読んだりしたことについて事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝え合うことができる。

五つの領域別の「学年ごとの目標」は、領域別の目標を踏まえると、各々を資質・能力の三つに分けずに、一文の能力記述文で示すことが基本的な形となります。

※「やり取り」の目標「ア」「イ」「ウ」ごとに目標を設定することも考えられます。

単元の目標

単元ごとの目標は、学年の目標を踏まえ設定します。

友だちの意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、野菜の歴史について書かれた英文を読み、読んだことを基に考えたことや感じたことを、英文を引用したり内容に言及したりしながら伝え合うことができる。

単元ごとの目標及び評価規準は、各単元で取り扱う題材、言語の特徴やきまりに関する事項（言語材料）、当該単元の中心をなす言語活動において設定するコミュニケーションを行う目的や場面、状況など、また、取り扱う話題などに即して設定します。

※以下、「英文を引用したり内容に言及したりする」を、「英文を引用するなど」という。

II 単元の評価規準を作成する

※例として1課の目標と評価規準を示します。2課と3課については、扱う言語材料と話題等が変わりますが、その他の部分は1課と同じになります。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〈知識〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 受け身や現在完了形の特徴やきまり、引用するための表現を理解している。 <p>〈技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 野菜の歴史について考えたことや感じたことなどを、受け身や現在完了形などを用いて伝え合う技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちの意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、社会的な話題（野菜の歴史）に関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして伝え合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 友だちの意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、社会的な話題（野菜の歴史）に関して読んだことについて、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして伝え合おうとしている。

評価規準作成のポイント

- 知識と技能を分けて評価規準を作成します。
- 知識は「【言語材料】の特徴やきまりに関する事項を理解している。」が基本的な形となります。
- 技能は「【言語材料】などを活用して、【話題】について【書かれた文等】の内容を読み取る技能を身に付けている。」が基本的な形となります。
- 「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」は、基本的に一体的に評価するので、文末だけを変えます。
- 「主体的に学習に取り組む態度」は、何のために概要、要点を捉えるのか、目的が明確になっています。



Ⅲ指導と評価の計画を立てる

※例として1課の指導と評価の計画を示します。各課の指導と評価の計画は、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料P48～P49を参照ください。

時間	ねらい (■)・主な言語活動等 (丸数字)	知	思	態	備考
1	<p>■単元の目標を理解する。</p> <p>■教科書の対話文を読み、引用するなどしながら考えたことや感じたことなどを伝え合う。</p> <p>①自己目標を設定する。</p> <p>②教科書の対話文を読み、読み取れた内容に関する自分の考えや感じたことなどをペアで伝え合う。</p> <p>③対話文で使われている未知の語の意味や受け身の構造と意味を理解する。</p> <p>④英文を引用するための英語表現を学ぶ。(Student A says, “～”. According to student A, ... など)</p> <p>⑤再度、対話文の内容に関して、引用しながら考えや感想などを別のペアで伝え合う。</p> <p>⑥ペアで話した内容を踏まえ自分の考え等を書く。</p>				<p>・自分の考え等を伝える際は、語句ではなく文で伝えさせる。</p> <p>・後日行うパフォーマンステストに向け、「帯活動」で、身近な話題に関する「話すこと[やり取り]」の言語活動 (Small Talk) に取り組みませ、相手の話に関わらせたり、質問したりさせる。</p>
2	<p>■対話文を読み、引用するなどしながら、考えたことや感じたことなどを伝え合う。</p> <p>①受け身を使って作成された教科書本文と別の対話文を読み、引用しながら、考えたことや感じたことを受け身の英文を使ってペアで伝え合う。</p> <p>②再度、対話文の内容に関して、引用しながら考えや感想などを別のペアで伝え合う。</p> <p>③ペアで話した内容を踏まえ自分の考え等を書く。</p>				<p>・第2、3時の学習の振り返りは適宜行わせる。</p> <p>(自己目標の設定や振り返りのさせ方などについては事例5参照)</p>
3	<p>■教科書の対話文(第1時で呼んだ対話文の続き)を読み、引用するなどしながら考えたことや感じたことなどを伝え合う。</p> <p>①教科書の対話文を読み、読み取れた内容に関する自分の考えや感じたことなどをペアで伝え合う。</p> <p>②対話文で使われている未知の語の意味や現在完了形(肯定文)に構造と意味を理解する。</p> <p>③前時まで学んだ引用方法を確認し、それを意識して再度、対話文の内容に関して、引用しながら考えや感想などを別のペアで伝え合う。</p> <p>④ペアで話した内容を踏まえ自分の考え等を書く。</p>				<p>記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導にいかさないよう十分留意する。</p>
4	<p>■対話文を読み、引用するなどしながら、考えたことや感じたことを伝え合う。</p> <p>①現在完了形(完了用法・肯定文)を使って作成した教科書とは別の対話文を読み、引用などしながら、考えたことや感じたことなどをペアで伝え合う。</p> <p>※②以降は第3時の③、④と同じ。</p>				
5	<p>■教科書の対話文とレポート(第3時で読んだ対話文の続き)を読み、引用するなどしながら考えたことや感じたことなどを伝え合う。</p> <p>①教科書の対話文とレポートを読み、引用しながら自分の考えや感じたことなどをペアで伝え合う。</p> <p>②対話文等で使われている未知の語の意味や現在完了形(完了用法、否定文・疑問文)の構造と意味を理解する。</p> <p>※③以降は第3時の③、④と同じ。</p>				<p>評価の場面は1回では終わりません。できていない生徒へのフォローを忘れずに!</p>
6	<p>■対話文や文章を読み、引用するなどしながら、考えたことや感じたことなどを伝え合う。</p> <p>①現在完了形(完了用法の否定文、疑問文)を使って作成した教科書とは別の対話文や文章を読み、引用しながら考えたことや感じたことなどをペアで伝え合う。</p> <p>※②以降は、第3時の③、④と同じ。</p>				
7	<p>■ピクチャー・カードを使い、受け身や現在完了形などを正しく用いながら、教師やALTに教科書の全ての本文内容について説明する。</p> <p>①ペアになり、相手を教師やALTにみたてて、教科書本文内容についてピクチャー・カードを使いながら説明する。</p> <p>②一人一人が教師やALTに教科書本文内容を説明する。</p>	○			<p>・「注」①、②参照</p>
8	<p>■初見の文章を読み、引用するなどしながら考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合う。</p> <p>①スピーチ原稿を読み、考えなどをペアで伝え合う。</p> <p>②ペアで話した内容を書く。</p> <p>③自己目標の達成状況を振り返り、次の課題を明確にする。</p>	○	○	○	<p>・「注」③参照</p> <p>○印がある時間は、記録に残す評価。</p>
後日	パフォーマンステスト	○	○	○	

生徒の力を評価できる状態まで指導してから記録に残す評価を行います。



「注」:

- ①教師は1回につき4人(2ペア)を観察し、「知識・技能」の評価規準に照らして、受け身や現在完了形を使用しなくてはならない文脈で用いることができるかを観察する。
- ②本事例では「話すこと[やり取り]」であるため当該領域の言語活動により本単元で扱う言語材料を用いて自分の考えなどを伝え合う技能を身に付けているか否かを評価する。他方、他の領域に焦点を当てた単元の場合、当該領域の言語活動により当該単元で扱う言語材料に関する「知識・技能」を評価することになる。
- ③以下のとおり評価する。
 - ・初見の文章を読み、読んだことについて、引用するなどしながら考えたことや感じたことなどをペアで3分程度伝え合う。その後、ペアを複数回変え、やり取りをさせる。
 - ・教師は1回につき、4人(2ペア)を観察し、本課の評価規準(「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」)に照らして評価する。十分な発話がない生徒がいた場合には、新しいペアにおけるやり取りを観察する。
 - ・第8時の観察の結果を本課の評価情報として極力記録に残すようにする。「知識・技能」の評価については、現在完了形や受け身の使用が見られなかった場合、第7時の観察の結果を加味することが考えられる。また、「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、第8時だけに限らず日々の授業における言語活動への取組状況を勘案する。



この事例では、○印がある時間は、極力全員の学習状況を記録に残すよう努め、確実に全員分の記録を残すのは後日行うパフォーマンステスト及びペーパーテストの機会としています。なお、○が付されていない授業においても、指導の改善や生徒の学習改善に生かすために、生徒の学習状況(例:受け身を使って考えを話すことができているか、引用しながら考えを話しているか)を確認することが重要です。確認結果は単元や学期末の評価を総括する際に参考にすることができます。

IV 本単元の「話すこと[やり取り]」における評価の総括

パフォーマンステスト(生徒2人がやり取りする場合を例示)から、評価の総括を見ていきます。

○内容

「A I の進歩と私たちの生活」に関する記事(article)を読み、読んだことに基づいて考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合う。

○採点の基準

「思考・判断・表現」について、単元を指導したことを踏まえて以下の3つの条件を全て満たしていれば「b」としている。なお、生徒の実態や指導の状況を踏まえ、全ての条件を満たしていれば「a」、2個なら「b」、1個以下なら「c」とすることも考えられる。

条件1: 読んだ英文を引用するなどしている。

条件2: 自分の考えたことや感じたことなどを理由とともに述べている。

条件3: 相手の考えを求めたり、話題を広げたり深めたりしながら対話を継続している。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	誤りのない正しい英文で話す。	自分の考えを詳しく述べたり、効果的に引用したりしながら、3つの条件を満たしてやり取りをしている。	自分の考えを詳しく述べたり、効果的に引用したりしながら、3つの条件を満たしてやり取りをしている。
b	誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる。	3つの条件を満たしてやり取りをしている。	3つの条件を満たしてやり取りをしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

○生徒のやり取り例及び評価結果

【例】 ※下線部は、誤りがある発話や文として不十分な発話を指す。

ア) 生徒のやり取り例

Student A: What did you think about the article? [条件3]

Student B: I think AI is great.

Student A: Why do you think so? [条件3]

Student B: Article write AI fridge. [条件1] No waste food if we can use it. [条件2]

Student A: I think so, too. Article writes AI makes our lives better. [条件1]

Student B: ... My family using AI...AI 掃除機. We can get free time. [条件2] ...You want?

Well...,you,you... (と言って相手の発話を求める手の動きをする。)

Student A: Yes. I want AI... cleaner. AI product is very useful because it helps us. [条件2]

イ) 採点の結果

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
Student A	a 正しい英文で話すことができている。	b 3つの条件を満たしてやり取りしている。	b 3つの条件を満たしてやり取りしようとしている。
	b コミュニケーションに支障のない程度の英文で話すことができている。(No waste food if we can use it.など)	c 条件3(対話の継続)を満たしていない。	b 条件3(対話の継続)は満たしていないが、質問しようとする状況はみられた。(You want? Well...,you,you...)

※「主体的に学習に取り組む態度」は基本的には「思考・判断・表現」と一体的に評価します。一方で、Student Bのように、3つの条件を満たしてやり取りすることはできなかったが、しようとしている態度(本事例では、聞き手に配慮しながら対話を継続しようとしている態度)が明らかに見られた場合、「思考・判断・表現」が「c」であっても、「主体的に学習に取り組む態度」を「b」にすることも考えられます。



○観点別学習状況の評価の進め方

Student A を例に、1課から3課の単元終末における活動の観察の結果が以下であった場合の、1学期の観点別評価の総括の考え方について示します。

	1課の結果	2課の結果	3課の結果	パフォーマンステストの結果	話すこと [やり取り] の評価結果	他の領域の評価結果	1学期の観点別評価
知	a	b	b	a	a	(a~c)	(A~C)
思	c	c	b	b	b	(a~c)	(A~C)
態	c	c	b	b	b	(a~c)	(A~C)

1課から3課への学習を行うにしたがっていずれの観点についても向上が見られることに鑑み、1学期の「話すこと[やり取り]」における各観点の評価結果をそれぞれ「a」「b」「b」としています。なお、「主体的に学習に取り組む態度」の1課、2課、3課、パフォーマンステストにおける評価(c、c、b、b)はいずれも、自己評価も参考にした上で「思考・判断・表現」と一体的に評価した結果です。



V 評価の観点(どのような状況の評価するのか)

各観点における評価のポイントは次の通りです。

	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと
知識・技能	話されたり書かれたりしている内容を理解できる。		英語使用の正確さ ※使用する言語材料の提示がない状況で、それらを用いて話したり書いたりすることができる。		
思考・判断・表現	目的、場面、状況に応じて、必要な情報、概要、要点を捉えることができる。		目的、場面、状況に応じた表現内容の適切さ		
主体的に学習に取り組む態度	<p>基本的には「思考・判断・表現」と一体的に評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言語活動に取り組む中で、育成された態度を評価します。 = 単元導入時の意欲や挙手・発言の回数による評価は適切ではありません。 ○「思考・判断・表現」と基本的には一体的に評価しつつ、言語活動への取組状況を観察して、その結果を加味することも考えられます。(IV本単元の「話すこと[やり取り]」における評価の総括に示したのがその例です。) 				